

## 毎週火曜掲載

## 教育に新聞を

## 実践

## コラム

## 力試し

## 現場

公開  
私の実践ノート

①

## 写真から想像力を育む

秋田県立大曲農業高校教諭 佐藤 香



さとう・かおりさん 秋田県立大曲農業高校教諭(国語科)。2011年から日本新聞協会NIEアドバイザー。大仙市在住。

写真記者の魂が込められ、時代と人の思いが写し出された写真を使った国語の授業を紹介する。写真の魅力を考え、被写体や撮影者の思いを記事とも関連づけて推察し、意見を交換して国語の話す・聞く・読む・書く力、想像力を刺激することを目指した。

3年生の最後の授業で、河北新報に掲載された二つの写真を提示した。1枚目は、震災があった年の子どもの日に

掲載された、こいのぼりが飾られた広瀬川のほとりで、シヤボン玉で夢中に遊ぶ子どもたちが写っている写真。同じころに小学生だった生徒たちは写真に引きつけられた。その日の新聞も読み、「写真が感じたこと」や「写真に込められた撮影者の思い」などを推察して書き、意見交換をした。

「悲しみにあふれている中でも、子どもたちは前を向いている」「この写真が希望の光になってほしいという気持ちが含まれているのでは」などと、一人一人が自分の言

葉で語っていた。

2枚目は、今年の成人の日に掲載された写真。晴れ着姿で満面に笑みを浮かべた仙台市の新成人たちが写っている。同じように意見を交換した。「生きていけば、会場にきていただろう子どもたちを思うと胸が痛む」「被災してつらい思いをした子どもたちが、ここまで成長したという

ことを伝えたかったと思う」などの発表があった。生徒たちは「笑顔が輝く写真の裏側にさまざまなことがあり、一枚の写真からいろいろな感情が読み取れると分かった」「記事や時代背景なども含め、さまざまな面から推察を交換できた」などと述べていた。

撮影した2人の記者に、生徒が考えたことをメッセージと共に送りました。いただいた返事から新しい気づきもあり、想像を超えた被災地の取材の様子や記者の使命感も強く感じられた。

本当には分からない人の心。それでも分かるようにする気持ちや想像力を大切に、困難を乗り越えて共に未来をつくるために国語の力を役立ててほしい。卒業を控えた生徒たちにそんな願いを込めた。

写真で伝えなかった思いを自分なりに考え、ワークシートにまとめる生徒



生徒が感想などを書いたワークシート。写真を撮影した記者にも送り、見てもらった

「公開私の実践ノート」

は今回で終了します。